

会 議 録

1 会議名

令和3年度第10回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

- ・「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について（公開）

【自主的審議事項】

- ・直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

令和3年10月26日（火）午後6時30分から午後8時9分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 中澤武志（会長）、青山恭造（副会長）、磯田一裕、今川芳夫、
河野健一、久保田幸正、坂井芳美、田中 実、田村雅春、林 昌宏、
古澤悦雄、増田和昭、丸山岳人、水澤敏夫、水島正人（欠席3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【中澤会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：林委員、水澤委員に依頼

議題【協議事項】「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

前回の会議で報告をさせていただきましたとおり、前期の委員を対象に実施した意識調査でいただいたご意見を基に市のほうで整理した。資料No.1－2の直江津区の現状と、市が例示した取組案を踏まえて当地域協議会において検討をお願いしたい3項目について、協議をお願いしたい。

・資料No.1－2「『地域協議会に関する意識調査』結果を受けた取組について（各地域協議会において取組を検討する項目）」に基づき説明

【中澤会長】

では、資料No.1－2にある「意見交換」について意見を求める。

【水島委員】

協議の前に確認したい。昨今、出席率が非常に悪くなってきている。何名の方が連絡をして、何名の方が無断欠席をされているのかお聞きしたい。今後の会議の中で無断欠席というのはありなのかどうか。

【中村センター長】

本日の状況は、欠席や遅刻の連絡をいただけていない委員は2人である。概ね、欠席の連絡はいただいていると思う。コロナ禍の影響で欠席しがちな委員や突発的な状況で欠席された委員について、事務局でも状況を聞いたり、連絡のお願いを再確認したいと思う。

【中澤会長】

改めて、意見交換について意見を求める。

【増田委員】

直江津区地域協議会は会議の意見交換を確実にやっているかと誇っていいと思う。令和2年度に町内会長との意見交換会、それから、直江津のまちづくりを話し合う会をやっている。今年度は、「五智公園を育てる会」「三八朝市周辺まちづくり協議会」「福島城を愛する会」と意見交換をする予定になっている。できれば、年に1回ぐらいは、町内会長、地域活動支援事業に応募している市民団体に来ていただいて、しっかりと意見を聞きたい。すれ違いが出ているような気もするので、これは必要だと思う。それから、一般市民にも地域協議会がどうなのかを理解していただくためには、来ていただく必要が

あると思う。今年度、あと5か月あるので、極力意見交換ができたらいと思う。私たちも地域の皆さんが何を考えているかお話をさせていただきながら、一緒になって地域づくりを考えていくチャンスだと思うので、今後5か月の中で計画をしていけたら良いと思う。

【田村委員】

昨年、町内会長、市民との意見交換会もやり、非常によかったと思う。知らないことが結構あった。自分の地域の周りのことを知る上で大事なことだったと思うので、これは続けて行ってほしいと思う。

【中澤会長】

前から話に出ている3団体とは話をする予定でいる。提案団体との話し合いの予定はないができればやりたいと思う。

【古澤委員】

いろいろな話し合いに町内会長、あるいは地域協議会委員という立場で出席させていただいている。私たちが求めるものは、いろいろ話を出すだけではなくて、何か一つの解決策がないと、意見が出ただけで終わっている感じがする。これからの会議の中では、ある程度一つの方向性というものを示しながら、会議を進めて検証等をやっていけば実のある会議になっていくと思っている。

【磯田委員】

古澤委員の意見に賛成である。直江津区は、先進的に意見交換をしてきた。いろいろな団体、チャンネルの中で意見を拾い上げていくということはしてきたと思う、振り返ると地域協議会の中でその意見を聞くというスタイルができてきているような気がする。一つ一つの議題を、今月の地域協議会はこの議題についてじっくり議論しようというような形でロードマップを作ってやっていかないと、ずっと後に送っていただけで、また意見交換しましょうという話になっていってしまう。地域協議会が一つの課題を完全に解決できるわけではないが、少なくとも解決の方向性、行政とのパイプ役みたいな形の中でどのような動きをすれば、それが解決に結びついていくのか、こういう形にしていったらどうかという指針みたいなものを少なくとも地域協議会は示す必要があるのではないかと思うので、今年はこの3団体だけにしておいたほうが良いと思う。一つのことを語るにも、2、3回ぐらい必要になってくるので、あまり意見交換の間口を広げすぎないで、少し、議論の深掘りをしていくような方向にしていくべきだと思う。

【中澤会長】

地域協議会がどこまでタッチするのかがある。解決まで持っていけることもあるかもしれないし、単にそういう情報を聞いて、そういう問題があるのだというところで留まることもあり、その辺が難しい。問題が出てきたら、その問題をある程度整理して、地域協議会がタッチできるところ、ある程度そこに足を踏み入れることができるところをやっていくしかないと思う。他の地域協議会に比べれば直江津区はいろいろ情報交換していると思う。

【久保田委員】

意見交換会についてだが、課題や問題点は大分出てきているが、今後、これを進めていくにおいて、実際に取組をやっている団体との意見交換があってもいいのかなと思う。

それから、視察をした中で、福島城の問題が出てきたが、久しぶりに行って見たが、電気がない、トイレがないという施設的な問題等があった。団体が前に進んでいくバックアップを我々ができるのではないかな。例えば、一つ整備をしていくときに、地域活動支援事業に応募してもらおう。こちらもそれをバックアップしていくというようなこと。それから場所の問題も出たが、古城小学校の跡地ということは、教育委員会の範ちゅうだと思う。場所の選択、陳情等もその団体だけではなくて、我々からも意見書なりという活動を開始してもいいのではないかと感じた。

【中澤会長】

問題が出てきたときに、地域協議会ができるぎりぎりのところまでタッチしていくということか。他に意見がなければ次にいきたいと思う。

【田村委員】

船見公園のトイレだが、市の施設だと思うが、非常に汚いと感じた。こういう視察をやった結果、こういう課題があるという意見を出しても良いのではないかなと思った。

【中澤会長】

視察の結果については、後で感想を述べていきたいと思う。それでは、次の項目「会議の運営」について意見を求める。

【増田委員】

直江津区に限っては、そんなことはないと思うが、委員によっては地域協議会をよく理解していない人がいるのでこういう結果が出てくる。例えば、開催日程が不定期で予定が立てにくいというが、不定期でも私たちは皆さんの意見を聞いてやっているから、

こういう意見が出てくる余地はないと思う。月1回の会議だけではとあるが、会議は月1回だと勘違いしている人がいる。必要であれば何回でもできるということなので、その辺の理解不足がかなり他のところであるのではないか。

それから、会議の時間が1時間程度となっているが、別に、何時間やっても良いが、通常集中できる時間は、2時間が限度だと思う。2時間で結論が出ないときは継続審議ということにできる。これは前期の委員の意見だが、4年もやって、なんでこんな意見が出てくるのかと私は思う。研修視察を重視するといっても、やってはいけないなんて言ってなくて、すべて、委員の理解不足からこういう意見が出てきている。むしろそっちのほうが、問題であると思う。もし、直江津の皆さんが、こういう思いがあるとすれば、前回水島委員から「必要な論議はしっかりやりましょう」という意見があったが、そこでやれば良いので、別に誰に遠慮することなく、委員としてしっかりと発言していけばよろしいのではないかと思う。

【中澤会長】

主な回答の「委員の責務として、全ての議題に対して、各委員から必ず発言していただくような会議運営にしてほしい」という意見を拾い上げたということは、相当こういう意見があるのか。私は、参加者の対応はいろいろあっていいと思う。必ず発言しなければいけないというのは良くないと思うし、そういう捉え方は、言葉の問題かもしれないが、市のほうでまとめるのであれば、これを土台にして話をするので、注意してほしいと思う。

【水島委員】

会長のおっしゃられたことは、非常によくわかる。前回の地域協議会の時に、皆さんが発言できる場を、皆さんの忌憚のない意見がどんどん出るような状況で会議を進行されたらどうかという話をした中で、いろいろな話が出てきたと思う。相手の言ったことがよくわかるから、発言を控えたいということもあると思う。すべての議題に対して、必ず各委員からの発言をしていただくということは、あってはいけないことである。自分は発言された方と同じ意見だと思っていることを二重三重に言う必要はないと思う。

【中澤会長】

他にどうか。ある程度融通のきく範囲でやっているのだから、直江津区としては、無理やり取り上げて、こうしなければいけないということはないと思っている。開催日時だが、月1回程度でよいのかというのがあるし、それから、去年は冬場の開催時間を午後6時

からとしていたが、その辺についてはどうか。

【古澤委員】

全員出席するとなれば、お勤めしている方のご理解等がなければ出来ないと思う。

【磯田委員】

自営業だが、仕事のきを一度つけて、準備してくるということを考えれば、6時半にしてもらわないと困る。

【丸山委員】

私も就業時間からすると、会議に出るにあたっては、6時半を希望する。

【中澤会長】

第3火曜日午後6時半からを定例として決めてはいるが、どうしても都合が悪ければ、その時はおっしゃっていただくか、欠席してもやむを得ないと思う。

【磯田委員】

会議を欠席する時でも、自分なりの意見を伝えられるように、事前の資料配布、議題の説明等はなるべく早い段階でお願いをしたい。また、会議の中で発言しづらい場合に、こんな意見を持っているが、発言は控えたいという時には、文書で箇条書きで出すという対応でも良いのではないかと思う。

【中澤会長】

発言しにくいことがあったら、そういう方法もあるという意見である。

では、会議は従来どおり月1回、第3火曜日、開催時間は午後6時半でお願いします。

次に「情報の発信について」意見を求める。

【磯田委員】

事務局に確認だが、発信のメディアは、直江津区地域協議会だよりでしか発信していないが、他区では地域協議会だより以外の取組があるのか。

【中村センター長】

他の区も地域協議会だより以外は、おそらくないと思う。

【増田委員】

年4回程度となっているが、直江津区の場合は、必要に応じてその都度発行するので、前期まではもっと頻繁に発行していた。

他の地域協議会は、年4回しか発行していないところがほとんどである。年4回で編集委員を募集して、編集委員が編集して出している。終わって何か月も経ったものをも

らっても、現実感が全然ないので地域協議会だよりの役割を果たしていない。それがあ
るので直江津区の場合は、「編集委員なんてやめて、定期的に出しましょう」ということ
になっている。

今、事務局が原稿を書いているが、その前は私が会長として原案を書いて事務局に渡
して、それを事務局が修正して発行していた。いずれにしても、地域協議会だよりは何
のために出すのかは、ただ出せば良いのではなく、地域の皆さんにしっかりと理解して
もらうために出すという位置付けである。

直江津区の場合は、この位置付けに従って、従来どおりしっかりとやっていけばいい
のではないかと思う。

【古澤委員】

地域協議会だよりの編集の仕方だが、見ていると字ばかりである。私も地域協議会委
員になるまでは、地域協議会がどんなことをやっているか全くわからなかった。市民の
皆様がイベントをやっているが、どこからお金がでていのかと思っっている方がたくさ
んいると思う。上越市地域活動支援事業事例集に載っている写真を地域協議会だよりに
載せて、直江津区地域活動支援事業でこういうことをやっているという周知すると、やは
り、市民の皆様方は、地域協議会はこういうことをやっているのかとわかる。私たちにと
っては当たり前のことだが、一般市民はこれを見てもほとんど読んでいない。写真があ
れば、内容がわかると思うので、視点を変えて、字ではなくて、見て知ってもらうよう
な形で発行してみて、反応はどうなのかを、試していただければいいのかなと思う。字
ばかりのものよりも効果があると思う。令和2年度上越市地域活動支援事業事例集を見
ると写真とコメントだけである。地域協議会だよりにそんなに難しいことを載せる必要
はないと思う。事業内容と決定した予算額で良いと思う。

【中澤会長】

事務局は、参考にしてほしい。

【水島委員】

良い意見が出たら、それをどうするかを、意見のキャッチボールをしようという話を
皆さんがされていたと思う。今、非常に良い話が出た。「字ばかりのたよりを出しても読
んでくれませんよ。どうしますか」と言われた。それをなおざりにして、次の議題にい
ったら、今の発言が非常にむなしい状況になってしまうと思う。せつかくそういう意見
が出たのなら、それを今後のこととして事務局だけにお任せするのではなく、我々も議

論されたらどうか。先ほど、磯田委員が非常にいいことをおっしゃられた。一つの議題を上げた中で、そういうことを真剣に取り組んでいきましょうと。それも一つではなくても二つでも三つでも四つでもいいですよ。そういうことをやっていかないと「絵に書いた餅」みたいなものばかり話し合っても意味があるのかなといつも思っている。

【磯田委員】

水島委員に賛成である。今までの地域会協議会だよりは、広報的な雰囲気のパーパーだったと思うが、市の提示した取組案の中に地域協議会だよりの内容として委員の声や自主的審議の状況ということが書いてある。意見交換会でいろいろ意見が出て、地域協議会で議論したプロセスや、「こうした方がいいのではないか」とか「こういうことを取り組んだらどうだろうか」といった意見を市民に示したり、「市民の皆さんからより多くの意見を聞きたい」というような地域協議会だよりになっていくべきではないかと思う。

ただ、それは誰がどう編集して、どういう形で作っていくかは、ある意味ハードルが高いところがある。出さなくてはいけないから出している地域協議会だよりでは、古澤委員が言ったように、誰も見ないということになりかねないと思う。

【増田委員】

勘違いしないでほしいのは、地域協議会だよりを発行する主体は地域協議会である。事務局が、委員の手が届かないので、代わりにやっていた。発行主体は地域協議会で、今言ったようにいろいろな意見があるとすれば、事務局任せにしないで、いろいろ意見が出たので、「少し目新しいちょっと良いものを作りませんか」と思う。今、出てきた意見を一応受けていただいて、こんな意見をいただいたので、次回はこんなふうに発行してみたいというものを考えていただければ大変ありがたい。先ほど古澤委員がおっしゃった地域活動支援事業の実績報告書は、年度末にならないと出てこない。そうだとすれば中間報告をして欲しいとお願いして、あるいは、終わったら報告まででなくても、写真と状況だけ送ってもらえば良いので、そのように進めたらどうか。

【中澤会長】

読みやすい内容にするためには、事務局だけではなく、誰か得意な方に手伝っていただくという必要があるかもしれない。これについては、次の時に編集方法と、方向性をもう1回確認したいと思う。全体を通じて、他に何かあるか。

【田村委員】

視察や意見交換を含めて、いろいろな段階があった。今度は、どういう方向性を持た

せていくかという話が出てきたが、それは今後やる予定なのか。つまり、今までいろいろな市民団体との話し合いをやった。課題も見えてきた。ある団体の状況がわかった。これを今後、私どもとしてどういう方向に持っていったらどうかという意見を考える次の段階に行くのか。

【中澤会長】

今、方向性と言ったのは、地域協議会だよりについてである。

次に、【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、先日視察に参加した委員から、気づいたことを率直にお話しいただきたい。

【磯田委員】

「旅情のまち直江津」のマップを持ってきたが、今から5年前に三八朝市の調査をした。マップの裏にひぐちキミヨさんから書いてもらった朝市のイラストマップがある。この調査の内容を踏まえており、出店数は43店だった。ここに書いてあるのは33店で「載せないでくれ」と言われている出店者もいたので、こういう形になっているが、5年前の調査でイラストマップを書いたときよりも、大幅に減っていた。多分、今、調査すれば、30店ぐらいになっている可能性もある。この調査のときの出店者のインタビューで、「あと2、3年だね。」あるいは、「息子夫婦に車で連れてきてもらわないと出店できない。それができなくなったら終わり。」などという方がほとんどだった。そういう状況の中で、視察に行った時にわかったと思うが、300mある道路に閑散とした状況を作るかのようにまばらに出店者がいて、非常に寂しい状況になっている。これだけしか出店してないのに、あそこの朝市の通りを全面的にふさいで、市として使っていて、周りのお住まいになっている方々に苦勞をかけているというような状況、出店者の声の後継者不足によって、今後さらに出店が厳しくなっていくだろうという状況の中で、朝市自体をどのように存続させていくのか、なくしても良いのか、どこかに場所を移すのか、集約するのか、もう少し抜本的な議論が多分必要になってくるだろうと思う。ここに来て、市の観光の部署がやっとテコ入れをし始めた。スイーツフェアを開催したり、今まで出店のターゲットになっていなかったような移動販売やアクセサリーもこの間は出店していた。

もう一つは、海浜公園でやっているマーケットみたいなものもあって、三八朝市としてどのように生き残っていくかを考えないと、なかなか難しいかなというのが現状である。今の状況を正確に把握して、それをどうしたらいいのか、あるいは、なぜそうなっ

てきたのかを、分析し、解決の手法を考えていくというような、プロセスをどう作っていくかが、問題かなと思っている。

【今川委員】

先ほど田村委員から、船見公園のトイレの話が出ていたが、先日、高田城址公園でアンケートをとっていた。その中にトイレに関する設問があり、公園のトイレは狭い、汚い、数が少ないと答えた。特に高田城址公園は、男性の大便器の数が少ない。直江津の船見公園も大便器が1か所しかない。船見公園のトイレの横に多目的トイレがあるわけだが、トイレの扉が非常に重い。以前、市に重くて壊れていると意見を言ったことがある。それで、少し直ったが、多目的トイレはまず古い。それから一般用のトイレも狭いし汚い。それを何とかしてほしいなど、いつも思っている。

三八朝市については、視察に行った時は、出店が15、6件だったと思うが、出店者に話を聞いたがお客さんも11時頃になると帰ってしまう。誰もいないから11時前に片付け始める。前は、お昼までやっていたと思う。朝市に出店される方で、若い人はまず出てこないし、お年寄りだけでは大変だと思う。

【河野委員】

福島城は、資料が少ないと思うが、よくあれだけまとめたなと思った。やはり、トイレと休憩所ぐらいは欲しいと思った。

三八朝市は、当日は、天候が悪いのもあると思うが、出店が少なかった。若い人も2、3店出てきているので、もう少し増えてほしいと思う。あの場所は風が強いので、お年寄りだけで、テントを張るのは大変だった。

【久保田委員】

全体としてちょっと寂しいなという感じを受けた。

福島城に関しても、資料を一生懸命揃えてあるが展示場が狭い、施設が悪い。それから、三八朝市もまばらになってきている。ライオン像のある館も展示物が少なく、施設を持て余しているという感じを受けた。

その時にちょっと感じたことだが、地域活動支援事業を受けている団体もあるので、各団体がもう少し連携を取れないかと思った。そして、各団体が取り組む内容として、こちらからも少し提案ができればと思った。

【田村委員】

福島城の展示物がよくここまで調べてあると非常に感銘を受けた。ただ、トイレがな

い、電気がない、休憩所がない。ライオン像のある館と対照的と感じた。一つは市が主導する施設、一つは地域の人達が一生懸命頑張ってきた施設であり、この差が非常に大きいなと思った。将来できるかわからないが、春日山入口にある埋蔵文化財センターに移した方が、かえって活かされるのではないかと思った。

三八朝市について、前に町内会長との意見交換で、朝市の時に車が出せず不便なので移してほしいような話も出た。私も1か月に1回ほど朝市に行くので、出店者と話したが、だんだん年をとって来年も出店できるかわからないとのことであった。ただ、10月3日は、イベントがあったようで非常に混んでいた。私としては、伝統ある朝市を場所は移してでも続けて欲しいと思う。

【古澤委員】

「福島城を愛する会」の感想だが、本当に立派に展示できている。場所が狭い中でも、きちんと整理されている。そして、隣の空いた畳のスペースを確保して懇談する場を設けたら、とても良くなると思う。これを地域活動支援事業に挙げていただいて、整備していったら良いと思う。

【増田委員】

参加したところには、それぞれの課題がある。課題もあるが、解決方法もある。私たち地域協議会が主体的に取り組んで、解決に向けて頑張っていきたいと思った。

【水澤委員】

古城小学校は皆さんが言われているように、非常に暗い。どこに何があるか、誘導する人がいないとわからない。解決策としては、発電機を設置しておいて、使うときに電気をつける。あまりにも暗すぎて、一生懸命やっている人たちが可哀そうな感じがする。

ライオン像のある館もそうである。照明が暗くてどこにどういうものがあるのか、あまりわからない。三八市の帰りに寄ってもらおうと思っても、案内がきちっとしていない。ここも継続が非常に難しいのではないかと感じた。ただ、三八朝市に関しては、他の2つの団体よりは、継続してやっていけるのではないかという感じを受けた。

【水島委員】

皆さんからいろいろな意見をお聞きして、私も同感するところがある。1番は、増田委員の「いろいろ課題はあるが、解決策はある」という発言に期待をしたいと思っている。

福島城を愛する会に関しては、本当にいろいろな問題がある。資料もあれだけよく揃

えたなあというほど、展示物がたくさんあった。しかし、狭い中で、押し詰められるように展示されているので、「隣のスペースが空いているのに何で使わせていただかないのか」と質問したら、「これから話をするんですよ」とのことだったので、また期待していきたい。

朝市が有名な能登で出店している方に質問する機会があった。出店者は、「もう年齢が年齢です」というような意見が多かったが、どうして賑やかなのかというと「目新しいものがあるとお客さんがたくさん来るから」とのことであった。それを三八朝市に振り返ってみたときに、目新しいものがあることで解決策につながると思う。

【青山副会長】

福島城に関しては、担当する役員の高齢化が進んでいると感じた。電気の問題に関しては、地域活動支援事業に発電機購入が提案されると思っている。その辺は、柔軟に考えていきたいと思う。ここにいる町内会長の委員にお願いだが、健康ウォークとか、史跡巡りで福島城をぜひ案内していただいて現状を見ていただきたい。そういうことを進めることで、福島城並びに三八朝市、五智公園を皆さんに知っていただくことが一番大事だと思う。

【中澤会長】

視察に参加されなかった方も、何か意見はないか。

【丸山委員】

磯田委員がおっしゃったとおり、市の観光担当が、スイーツまつりや鉄道まつりなどの大胆で新しい取組をしている。鉄道まつりでは、鉄道用品の販売も行って大好評だった。目新しいものとか珍しいものなど、普段売っていないようなものを扱っていた。出店者も、数店舗ではなくて10店舗とかたくさん出ていた。そういったところが楽しさに繋がって、皆さんも興味を示して来られたんじゃないかなと思っている。ただ、三八朝市については条例があるので、改善したいということであれば、市の担当部署からもこの場で情報を提供していただくのもありかなと思う。

【林委員】

私たちが今から1年半ぐらい前から出店させていただいている。私も、月に3、4回ぐらいは行くようにしているが、1年半前から比べると、新しい出店者の方は、客観的に見ても増えたかなというふうには思っている。ただ一方、出店される方の高齢化や、新しく出店するに当たって、人が来るか来ないかという問題もあると思っている。やは

り人を呼べるイベントを継続的にやっていくといとところと、先ほど丸山委員がおっしゃっていたように、新しく出店するに当たってのハードルなどを改善できれば、少しはステップとしては進んでいくのかなと思っている。私達もずっと出店し続けることで、少しずつ変わってくるのかなと思っている。

【坂井委員】

私は福島城に行ったことはないが、皆さんの意見を聞いて行ってみたいと思った。三八朝市に関しては、出店したいという人もたまに聞くが、すごくハードルが高いと聞いている。1回だけでは駄目とか、必ず出なさいとか、そのように言われたりしているようである。ライオン像のある館については、これから改善の余地はあるのかなと思う。

【中澤会長】

これから各団体に質問を出す、まず、各団体に現状どういった問題があるか、どのように捉えているか、分析しているのかを、直接お話いただきたいと思っている。それから、今後どうするのか、どういうことを考えているか、未来への展望という観点で、まずお話いただいた後に、こちらからそれについて質問をするという流れにしたい。ただ、その時にくれぐれも注意して欲しいのは、採択するわけではないから、本当に寄り添って問題を解決していくという方向で臨むということで、話し合いを持ちたいと思っている。

【磯田委員】

過去に行った意見交換は、意見を聞くという前提で、「双方の対話は控えてください」という協議会のスタンスだったと思うが、今回は、もう少しざっくばらんな、お互いの意見をやりとりする意見交換だと思ってよいのか。

【中澤会長】

私はそのように思っている。3団体一緒に来てもらうか、それとも別々なのか、という問題もある。1つずつか、というふうに思っているが、また、検討したいと思う。

次に、その他の意見を求める。

【青山副会長】

屋台会館の雨漏りの補修は終わったように見受けられるが状況はどうだったのか。

もう一つは、うみがたりのイルカについて、原因と対策の検証を行ったわけだが、地域協議会に説明して欲しいと思う。

先日、福島城の見学に行ってきたが、古城小学校が閉校になった場合に、展示室がど

うなるのか。閉校と一緒に解体されてしまうのか。

なおえつ保育園が民間譲渡されるが、民間に移管した場合に今までの駐車場を使えるのか。

【中村センター長】

事務局から承知している範囲でお答えさせていただく。直江津屋台会館の雨漏りについては、うみまちアート開催までに雨漏りしないように工事が終わっていると認識している。

うみがたりのイルカの話については、原因と対策ということで、専門の会議を設けて検討したとのことである。また、地域協議会の皆さんが地域の課題を把握したり、解消に向けて協議する際に状況を承知していただくということは非常に重要なことなので、事務局としても会長、副課長とも相談しながら、場合によっては、担当課から説明に来てもらう段取りを進めたいと思う。

なお、詳細については、この協議会でも何回かお話しているが、教育総務課、それから、うみがたりの指定管理者の都合がつく範囲で、説明に来れるか調整させていただきたい。

福島城資料館については、以前、デイサービスセンターだったところを資料館として活用されている状況だが、来年の春に閉校になることで資料館も閉じるのではないかとのご心配かと思う。私どもも直接確認していないが、学校が閉校になったとしても、すぐには取り壊せないことは他のケースで承知しているので、そのまま建物を活用していくという方向で進むのではないかとと思う。担当は、用地管財課と聞いているが、継続できるのか確認していきたい。

なおえつ保育園の職員の駐車場については、運営が民間に移ったとしても駐車場はこれまでどおり貸してもらえないのではないかとと思う。保育課で調整することになるかと思う。なお、保育課から民営化に向けた保護者の方との協議状況や、次年度以降運営をする先生方が、市の保育士の先生と合同保育をされていると聞いている。半年の検証結果も踏まえて、報告に来るという話なので、この駐車場の話が出た旨をこちらから伝えておく。

【青山副会長】

今程の説明は、実際に担当されている方の答弁ではない。屋台会館のときも、ここで取り上げたときに町内会長協議会から、市に直接陳情に行ってもらったりした。こうい

う経緯もあるので、やはり、担当の方から、きちんとした説明をお願いしたい。

【中村センター長】

承知した。なるべく詳細な話もできる担当課から来てもらえるように調整させていただきたいと思う。

【田村委員】

今年の1月頃から豪雪になった。生活道路が全く止まった町内もそれぞれあったと思う。その検証した結果は、まだ出来ていないのか。市としてこういう検証して、今後こういうふうに対策をとって、今年の冬に向けてこういうことをやっていきたいという考えを聞きたい。オペレーターの後継者を育てる計画は聞いた記憶があるが、特に生活道路の問題として、私どもも経験したが、いわゆる病人がいる、消防車が入らなくなった、ということで町内総出で除雪したり隣近所の力を借りて、家の前の雪を整理したり、消火栓が出やすいようする努力をした。そういう町内の力が大事だったが、やはり行政としてどういう方向性に持っていくのか。今年の検証を含めて、まだ議論がなされているのか、途中経過なのか。今年は道路の白線が非常に消えた。私も道路課ではなく、町内会長に言ったら、予算がないという結論で白線が引けないとのことだった。市民としてやはり、停止線、あるいは、歩道の境界線の白線はきちんと予算をつけて、優先して安全、安心のまちにさせていただきたいなというふうに思っている。その辺の詳細をできたら、次回か、その次ぐらいまでにお答えいただければいいと思う。

【中村センター長】

大雪災害対応の検証については、市では部をまたいで検討しているという状況である。9月に中間報告をさせていただいているが、最終的な成案については、おそらく11月中には出るようになると思う。成案について、どういう形で伝えるかということを含めて、担当課の方に確認していきたい。

【増田委員】

今の問題は、議会の方でも注視しているので、しっかりと報告することになっている。議会に報告してそれで終わりではなく、時期はいつと指定することはできないが、住民の生活に及ぼす影響は非常に大きいので地域協議会にも報告するべきだと思う。同じことで、うみまちアートも結果報告をしてもらうことが必要だと思う。

いずれにしても地域協議会としては、地域に関わることなので、しっかりと結果なり途中経過を報告していただいて、意見があれば出していかないと地域として改善できな

いと思う。

【古澤委員】

今年は、広範囲の町内会長を集めて何班かに分けて除雪会議を開催する。9月に出た中間報告をもとに、除雪会議は、計画されている。

【中澤会長】

次に「その他」について事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・関係団体との意見交換に係る質問票についての説明
- ・次回地域協議会：11月16日（火）午後6時30分から

【中澤会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。